

顧問

小暮葉満子さん79(横浜市南区)



保存運動のきっかけ

は。

「戦時中、小学生の頃に野口英世博士の伝記を読み、貧しさを乗り越えて世界的な細菌学者になった生き方に感銘を受けました。普通の主婦だった1979年、横浜市金沢区に英世ゆかりの旧細菌検査室がある一方、近々取り壊される予定であることを知りました。何とかして残さないといけないと思い、当時は珍しかった文化財の保存運動に立ち上がり、代表に就任しました。」

旧細菌検査室とは。

「英世は1899年5月、横浜海港検疫所の検疫医官補として検査室で検疫を行

文化を語る

英世の功績 守り抜く



っていました。横浜港に入港しようとしていた船員からペスト菌を検出し、一躍有名になりました。私が1979年に初めて訪れた際は、周辺は

ジャングルのように雑草が生い茂り、建物の板が外れたり、窓ガラスが割れたりしていました。」

「どのような保存運動を進めてきたか。」

「取り壊されれば、建物の歴史が途絶えてしまいます。横浜市民に検査室の存在を知

保存運動中には、地元の塗装業者の協力で旧細菌検査室の補修や塗装が行われた(1984年9月撮影、小暮さん提供)

旧細菌検査室がある長浜野口記念公園(横浜市金沢区)内の長浜ホールで今月27日、映画上映や講演会で野口英世の生涯を知ることができるイベント「野口英世フェア」が行われる。

フェアでは、英世と母の物語を映画化した「遠き落日」(1992年公開)を上映するほか、講演会では保存会幹事が、英世が郷里の友人に送った5通の手紙を読みながら、その人柄について解説する。

映画は2時間で、午前の部は午前10時半から、午後の部は午後2時から。各部定員100人。講演会は午後0時45分から1時間で、定員30人。入場無料だが、事前の申し込みが必要。

問い合わせは、同ホール(045・782・7371)。

「85年に検査室の取り壊しが撤回されたときの思いは。」

「取り壊しの撤回で、さらに運動に力が入りました。『英世の遺産を守らないといけない』という思いが伝わり、保存運動の輪はだんだん大き

なりました。すると、93年に国から横浜市に検査室を含めた周辺施設の払い下げが決まり、97年に長浜野口記念公園として開園しました。」

現在の活動は。

「97年の記念公園の開園で保存運動を成就させてからも、これまでの活動内容をお伝えする機会があります。昨年10月には、英世の出身地である福島県猪苗代町で講演しました。今年5月には、横浜市で開催された第5回アフリカ開発会議(TICAD5)の関連事業として講演の場を設けていただきました。」

保存運動の意義は。

「英世ゆかりの研究施設として現在も残っているのは、旧細菌検査室だけ。施設を残すことで、英世の功績を後世に伝えられます。主婦の力だけでは保存運動を進めることはできず、『大切な遺産を残さないといけない』というみんなの思いが結集したことが大きかったと思います。重要な文化財なので、なくなってしまうのは遅いんです。」

(聞き手・佐藤雄一)